



定住・移住に関するお問い合わせ一覧

移住

定住・移住についての総合窓口

■田原市役所 企画課

☎0531-27-7978

✉jinkou@city.tahara.aichi.jp



空き家・空き地について

■田原市役所 建築課

☎0531-23-3684

✉kentiku@city.tahara.aichi.jp

スマイルタウン赤羽根について

■田原赤羽根土地画整理組合

(田原市役所街づくり推進課内)

☎0531-23-3523

暮らし

ごみについて

■田原市役所 廃棄物対策課

☎0531-23-3538

✉haikibutsu@city.tahara.aichi.jp

上下水道について

■田原市役所 水道課

☎0531-23-3532

✉suido@city.tahara.aichi.jp

■田原市役所 下水道課

☎0531-23-3525

✉gesui@city.tahara.aichi.jp

公共交通(ぐるりんバス)について

■田原市役所 街づくり推進課

☎0531-27-8603

✉machi@city.tahara.aichi.jp

観光

田原市の見所・観光について

■田原市役所 商工観光課

☎0531-23-3522

✉syoko@city.tahara.aichi.jp

■渥美半島観光ビューロー

愛知県田原市東赤石5-74

(道の駅田原めっくんはうす内)

☎0531-23-3516

HP <http://www.taharakankou.gr.jp/>



仕事

新規就農・農地バンクについて

■田原市役所 営農支援課

愛知県田原市加治町南恩中7-5

(田原農業支援センター内)

☎0531-22-1126

✉einou@city.tahara.aichi.jp

職業相談・職業紹介について

■田原市地域職業相談室

愛知県田原市赤石2-2(田原福祉センター内)

☎0531-24-0050

子ども

子ども医療費について

■田原市役所 保険年金課

☎0531-23-3514

✉hokenen@city.tahara.aichi.jp

妊娠・出産・育児相談について

■親子交流館 すくっと

☎0531-23-1510(施設のお問い合わせ)

☎0531-23-1520(相談専用)

■田原市役所 健康課

☎0531-23-3515

✉kenko@city.tahara.aichi.jp

■あつみライフランド 健康課

愛知県田原市保美町寺西21-10

☎0531-33-0386

保育園・子育て支援について

■田原市役所 子育て支援課

☎0531-23-3513

✉jidou@city.tahara.aichi.jp

小・中学校転入について

■田原市役所 学校教育課

☎0531-23-3679

✉gkyou@city.tahara.aichi.jp

児童クラブ・放課後子ども教室について

■田原市役所 生涯学習課

☎0531-23-3635

✉syogaku@city.tahara.aichi.jp

【発行】田原市役所 企画部 企画課

愛知県田原市田原町南番場30-1

☎0531-27-7978 FAX0531-23-0669

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>



田原市公式Instagram #たはら暮らし

一人ひとりのたはら暮らし。ちょっとのぞいてみませんか。
Instagramで「田原市」(@tahara_kurashi)と検索。



令和3年発行

サーフィンが大好きで、大好きで。

田原市に移住して、理想の暮らしを手に入れたサーファーのライフスタイルを大公開!

愛知県田原市
定住・移住ウェルカムガイド

サーフィンが日常になる たはら暮らし



CONTENTS

私たちが「たはら暮らし定住・移住サポーター」です。

田原市に移住を決めました!

住むところ×地域のつながり=定住・移住



移住経験者として、たはら暮らしを希望する方のサポートを始めました。

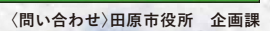
私たち「たはら暮らし定住・移住サポーター」が、
たはら暮らしの第一歩をサポートします。



SURFTOWN

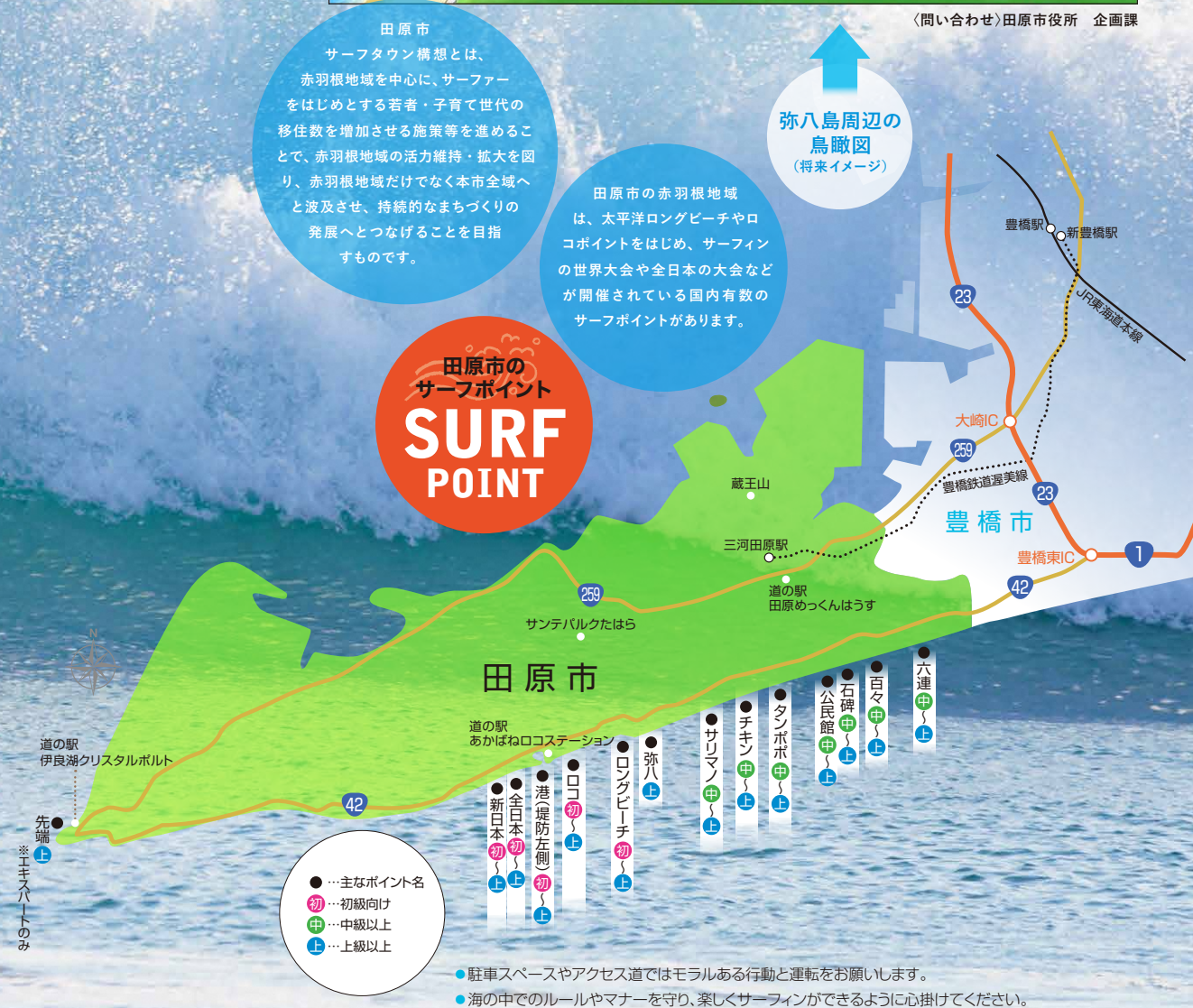
「サーフタウン構想」(将来イメージ)

【サーフタウン構想】（将来イメージ）



田原市の赤羽根地域は、太平洋ロングビーチやロコポイントをはじめ、サーフィンの世界大会や全日本の大会などが開催されている国内有数のサーフポイントがあります。

弥八島周辺の
鳥瞰図
(将来イメージ)



- 駐車スペースやアクセス道ではモラルある行動と運転をお願いします。
- 海の中でのルールやマナーを守り、楽しくサーフィンができるように心掛けてください。

※田原市サーフタウン構想の戦略プランについては、田原市ホームページでご覧いただけます。田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp> ID: 1005765

私たちが「たはら暮らし定住・移住サポーター」です。

先輩移住者の生の声を聞こう！

たはら暮らし定住・移住サポーターとは

定住・移住希望者からの住まいや仕事等に関する相談対応や情報発信、新生活のサポート、空き家情報の市への提供を行うなど、行政と地域、住民が連携して定住・移住者の受入体制の整備・強化を図ることにより、定住・移住につなげていこうと立ち上げた制度です。

サーフタウン構想の中心となる赤羽根地域をモデル地区として、移住されたサーファーの方々が、たはら暮らし定住・移住サポーターとして活動しています。

p04
小川史さん

p07
那須憲治さん

p06
森屋政則さん

p08
田邊由美さん

たはら暮らし定住・移住サポーターに相談希望の場合は
すでに、サポーターの方とお知り合いの場合は、直接ご相談ください。

● 田原市 企画課へ

相談内容により、サポーターを
マッチングし、ご紹介します。

●田原市役所 企画課 ☎0531・27・7978

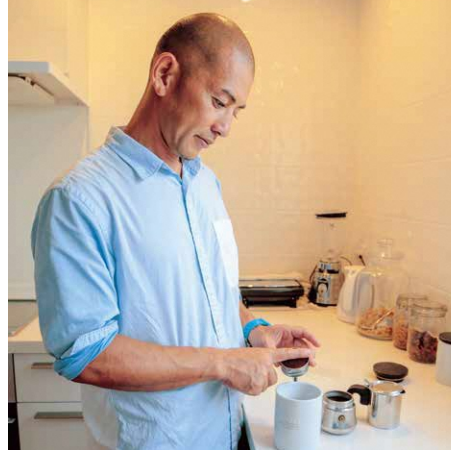
メール jinkou@city.tahara.aichi.jp



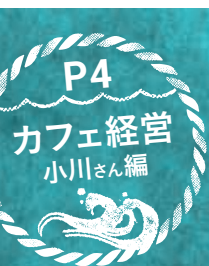


田原市に移住したきっかけは？

大阪で生まれ育ち、中央卸市場で仲卸しをしていました。1年のうち360日は仕事をしていたため、体の不調が続き「自分自身を見つめ直したい」と退職し、海外へ一人旅をしました。初めてハワイに行った時に、サーフィンを知り人生観ががらりと変わり、その後、アメリカやヨーロッパ、アジアなど、サーフィンをしながら20か国以上を旅しました。友人が住んでいた田原市へサーフィン旅行をした時に、自然豊かな環境や、ゆったりとした雰囲気に惚れて、移住をしました。



4. 新築した自宅です。夫婦水入らずのひと時
- 5/6. 経営するカフェは、地元の人だけではなくサーファーからも大人気
7. ゆっくりと過ごすことができるおしゃれな店内
8. 「渥美半島たはらブランド」に認定された「ペーニョボンス」
9. ペーニョボンスの原材料ハラペーニョは自分の畑で作っています



自然豊かで幸せな空気感に包まれた、自分らしくいられる街。



絶不調だった当時、田原市に来た時の“幸せに包まれた感覚”は今でも忘れられません。

小川 史さん

大阪市住吉区で生まれ育つ。友人が住む田原市へサーフィン旅行をした時、田原市の良さに惹かれて移住を決意。

現在、コーヒーとマフィンなどを提供するカフェを営む。

田原市に住んで、サーフィンと暮らし、自分自身に変化はありましたか？

田原市に移住したのが33歳の頃。地元のサーファーとも繋がり「自分も上手になりたい!」と、当時は、1日6回海に入るくらいサーフィンを楽しんでいました。現在は1日2回ほどに減りましたが、常に海は身近に感じられます。サーフィンは空気のようなもの。ここに移住してきたのも、サーフィンがあったからこそ。移住した後、体調も良くなり、自分の好きなことができる環境にすることが、とても幸せです。



- 4:00 起床
- 4:30 ロコポイントでサーフィン
- 6:00 家族みんなで朝ごはん
- 8:00 子どもたちを学校へ送り出して畑作業
- 9:00 お店の開店準備
- 16:00 お店を閉店 畑作業
- 17:00 ロコポイントでサーフィン
- 19:00 家族みんなで夜ごはん
- 20:00 就寝



Time Schedule



photo:M.kitamura



1. 朝、海に入る前に持参したコーヒーを飲みながら、波のチェック
2. 自宅でマキネットに淹れたコーヒーを楽しむ
3. 1日に2回、自宅近くのロコポイントへ
4. サーフィンを楽しむ小川さん

お店を持ちたいと思ったきっかけは。

海外で初めてエスプレッソコーヒーを飲んだのが忘れられず、田原市でエスプレッソのお店をオープンしたいと屋台からスタートしました。念願のお店を持ったのは2012年。そして2021年には、築70年の元・保育園をリノベーションした現在の店舗へ移転しました。太陽の光がたくさん入るので、小さな観葉植物を置いていたのですが、自分の背丈以上に大きく育ち、最高の環境です。また、2018年には定住・移住の補助金を使って家を新築しました。自分でつくるのが楽しいので、住みながら少しずつ手を加えています。

オリジナル調味料を開発されたそうですね。

自分の畑で作っている「ハラペーニョ」を入れた「ペーニョボンス」というオリジナル調味料を作りました。メキシコを旅した時、ハラペーニョの美味しさに感動し、帰国後いろんなハラペーニョを食べました。しかし、どうしてもその美味しさが忘れられず、自家栽培しました。土作りから種まき、収穫、加工、商品まですべて手作りで。農業は初めて取り組んだのですが、田原市は新規就農のサポートも手厚く、農業を始めやすい街だと改めて体感しました。

小川さんにとって、田原市はどんな魅力がありますか？

僕の理想がすべて詰まっています。サーフィンもできるし、ストレスを感じずに人間らしくいられる場所。結婚して、子どもが3人いますが、子育てにも優しい街だと思います。今まで描いてきた、「こうなったらいいな」という夢を、形にしてくれます！





小学生の頃から海が見える暮らしに憧れていて。
その理想を家族で実現しました。

森屋 政則さん

東京都練馬区生まれ。埼玉県川越市育ち。
美容師を経て、田原市へ移住。現在は自然栽培の農業を営む。

田原市に移住したきっかけとは？

子どもが小さい頃、休みが全然取れなくて。海も遠く、往復6時間くらいかかる場所だったので、自分の好きなことをやろうと思って、海がそばにある田原市に移住を決めました。

現在、自然栽培の農業を営んでいるそうですね。

農業をやってみたいと思い、無農薬無肥料で栽培し、通販を行う農業法人にお世話になっています。新しく農業を始めると、なかなか土地もないし、場所を探すのも大変。少ないスペースの中で、ある程度収益もあげられ、その土地に合った作物作り（さつまいもや大根）が良いかなと思い、自然栽培という方法でやっています。

森屋さんの家は空き家を活用されたと伺いました。

現在田原市には、空き家・空き地バンクという仕組みがあります。僕が来た当初はなかったので人づてに探しましたね。自分で手直ししながら生活しています。空き家・空き地バンクなど、どんどん活用されると良いですね。

森屋さんにとってサーフィンとは？

趣味というよりは、生活の一部です。波の状況が分かる場所にいないと、実際良い波には乗れないのです。暮らしの中で波を見られる環境を目指した結果、今の自分があるように思います。



田原市に移住したきっかけは？

20歳の頃、世間ではサーフスタイルが流行していました。実際にサーフィンをしたいと思い田原の海へ行き、サーフィンの魅力にはまりました。当時は、岐阜県から海まで往復5時間かけて通っていました。サーフィンをやっているうちに、負けん気に火がつき「プロのロングボーダーになりたい」と思うように。仲間に相談したら「田原市に移住したら上手くなる」と聞き、すぐに田原市に住みました。

ロングボードのプロになり夢が実現しましたね。

海と住まいが近い環境になったので、毎日海に入って練習をし、2009年に念願のプロ資格を取りました。プロになってから、試合も中途半端になってきた時、「これではいけない」と思い、昨年全国の試合を巡ってプロを続投するかしないか、自分なりに考えてサーフィンをしました。結局は現役引退をしましたが、もちろん今でもサーフィンはしています！試合という重荷から解放されて、今は肩の荷が降りた状態で楽しみながらサーフィンをしています。



仕事や住まいはなんとでもなる！夢を追いかけた。
扉は常に開いているからこそ飛び込めた。

那須 憲治さん

岐阜県多治見市で生まれ育つ。サーフィンをきっかけに20歳の時に田原市へ移住。しらす漁の仕事をしなが2009年ロングボードのプロ資格を取得、2017年現役引退。

田原市での暮らしはどうか？

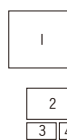
地域みんなが優しく、自分のやりたいことができる場所です。初めは移住者に対して、地域の人との壁があるようなイメージでしたが、自分でその壁を壊そうと、地域のゴミ拾いをしたりと、地元の人と溶け込むように努力したりしたら、案外すぐに仲良くなれました。結婚し、子どもは3人で、中古物件の家を購入しました。空き家・空き地バンクは名前だけ知っていたのですが、どのように活用していいかわからず…。もし知っていたら、空き家・空き地バンクの制度を使っていたかもしれません！

仕事について教えてください。

移住当初、仕事をどうしようか悩んでいた時、サーファー仲間の親戚がしらす漁を営んでいる話を聞き、しらす漁の仕事につきました。しらす漁の仕事は、早朝から沖でしらすをとり、昼頃に港へ戻り、競りにかけるまでが仕事。14時ごろには終了するので、夕方にはサーフィンができる環境です。



プロサーファーになりたい！
自分の夢を叶えるために移住。



- 1.サーフィンについて熱く語ってくれた那須さん。地元サーファー仲間からも愛されています
- 2.船の操縦を担当する那須さん。ナビやソナーを使って漁場まで行きます
- 3.しらす漁は3艘1チームで行います
- 4.とれたてのしらす



- 1.古民家に住むのが夢だったという森屋さん。広々としたお庭で家族との時間を過ごす
- 2.奥様と、小学校3年生・5歳・3カ月の男の子、お父さんの6人家族で住んでいる（2017現在）
- 3.お父さんと一緒に農業を営む森屋さん



サーフィンと出会い、 移住したことで暮らしがより豊かに。 海、釣り、自家菜園。心癒される日々到大満足！

田邊 由美 さん

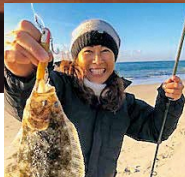
京都府舞鶴市生まれ。金沢医科大学病院看護部を卒業し、看護師に。
名古屋在住の頃にサーフィンと出会い、2017年田原市へ移住。
現在は、豊橋市内の病院で看護師として勤務。

サーフィンを始めたきっかけは？

父親の転勤で全国各地を転々と巡り、金沢市で看護師になりました。その頃はスキーをしていて、パトロール救護隊としても活動をしていました。その後、名古屋市に縁があって引越し、スノーボードに転向。看護師をしながら冬はゲレンデでインストラクターをしていましたが、30代後半、夏のトレーニングに始めたサーフィンに、はまってしまいました。とても楽しくて、冬の時期も入るようになり、「もっとサーフィンをやりたい」「海の近くに暮らしたい」と思うようになりました。

そこで、田原市に移住を決めたんですね。

海の近くに自宅を構えようと思い、田原市内の物件を見たり、千葉や南伊豆、海外など、各地の移住先を調べては現地まで足を運んだりしていました。突然、田原市在住の移住友達から「良い場所に土地があるよ」と連絡が入り、見に行ってみると、サーフポイントから徒歩5分以内で、ゆったりとした環境に一目惚れ！田原市に移住しようと決めました。



田原市での暮らしはどうか？

最初に思ったのは、野菜が新鮮で美味しい＆安いということ。近所で畑を持っている人からいただくことも多々あり、玄関に野菜が置いてあった時はびっくり！とても嬉しかったです。また、近所の人とのつながりや会話もあるので、安心して暮らすことができます。昨年からより自然に近い生活をしたいと、野菜を育てたり、マンゴー栽培に挑戦したりしています。最終目標は自給自足！自然な暮らしが実現できるのも、田原市の魅力です。

休みの日の過ごし方を教えてください

9時頃から昼前まで海に入って、お昼を自宅で食べて、夕方は波があればサーフィンをするルーティーンです。波がない日は海釣りをしています。波があっても、なくても、自然の遊びができるのも良い環境だなと思います。

今後、田原市へ移住したいと思っている方に一言お願いします。

サーフィンをやっている则り合いが増えるので、田原市の移住などの情報も入るとは思いますが、「たはらし定住・移住サポーター」に情報を聞くのも良いなと思います。地元の情報など深く聞くことができるのでおすすめです。田原市に移住したことで、自然と触れ合うことが増え、心も身体もリラックスでき、充実した日々を送っています。自然に感謝をしながら、サーフィンとともに、ここの暮らしをこれからも楽しみたいです。

私たち「たはらし暮らし定住・移住サポーター」が縁で、田原市に移住を決めました！



田原市に移住を決めたきっかけとは？

東京に住んでアーティストとして活動をしていたとき、仕事は充実していたにもかかわらず、海から離れた暮らしでは、満たされない思いがありました。海の近くに住みたいという思いが強くなり、移住先を探す中で、徳島のローカルサーファーや、徳島の地元の人たちに出会い、その後の私の生き方が変わりました。『地元』を大切に盛り上げていこうという徳島の人たちにならって、私も地元である愛知県で活動をしていこうという気持ちになりました。伊良湖は愛知県随一のサーフポイントでもあることから移住を意識し始め、赤羽根には自分の街を良くしていこうと行動している人がいて、私が目指しているコミュニティがそこにあると感じました。東京から徳島、その後に刈谷市に引っ越し、東浦町にて夫婦で住み始め、お互いに「田原市に住もう！」と思いました。

理想の住まいに出会ったと伺いました

物件探しも兼ねて赤羽根に週に1〜2回通っていましたが、それでは少なくて。いい波には、サーフポイントの近くに住んでいないと乗れないのです！アートの仕事が忙しく、「今日はいい波だよ」と友達から連絡が来ても赤羽根の海に行けず、いい波にも乗れず、もどかしさがありました。最初は空き家バンクに登録して、自分たちの足で探していたところ、「たはらし暮らし定住・移住サポーター」の小川さんに出会い、空き家の情報をいただきました。空き家の持ち主の方ともつないでいただき、ご縁があって購入することができました。

田原市の印象はどうか？

冬でも日差しが強く夏のようなです。土地が広く、のびのびと作品制作ができるのが良い環境だと思いました。何よりもサーフポイントの海に近いですし、サーファーを受け入れてくれる地域の雰囲気や、コミュニティもできつつある所が良いですね。これからは、アートと農業で自給自足の暮らしなど、自分のペースで生活していきたいです。



たはらし暮らし定住・移住サポーターの小川さん(左)に移住の相談

自らも移住者である
「たはらし暮らし定住・移住サポーター」が
同じ目線でアドバイス！

まずは田原市企画課へご連絡をお願いします。
相談内容により、たはらし暮らし定住・移住サポーターをマッチングし、ご紹介します。

田原市企画課 ☎ 0531・27・7978
メール jinkou@city.tahara.aichi.jp



住むところ× 地域とのつながり ＝定住・移住

定住・移住するには「住むところ」と「地域とのつながり」が大切。
そこで田原市に住む地域代表の3名と田原市へ移住してきた5名のサーファーが「空き家・空き地バンク制度」や「地域とのコミュニティ」について意見交換会を開催。それぞれが考える本音を初めて話し合ってくれました。

(2018年7月に開催)

地域代表(平成30年度コミュニティ協議会会長)



藤城 孝行さん

高松コミュニティ協議会会長



中村 文紀さん

赤羽根校区コミュニティ協議会会長



玉越 宏利さん

若戸校区コミュニティ協議会会長

移住サーファー代表



那須 憲治さん

岐阜県多治見市から移住



小川 史さん

大阪市住吉区から移住



森屋 政則さん

埼玉県川越市から移住



寿崎 雅幸さん

愛知県知多市から移住



佐藤 巧さん

愛知県高浜市から移住

空き家・空き地バンク制度 あることを 知っていましたか？

(※以下、空き家バンク)

佐藤 ■19年ほど前に高浜市から田原市へ、サーフィンを楽しむの一部にしたいと移住をしました。家族ができて住まいを見つける時は空き家バンクについて全く知らず、新築の家を建てました。その後、空き家バンクのことを知り「こんな制度があるんだ」と驚きました。

寿崎 ■僕は、8年前に知多市から移住してきました。今は田原市サーフィン協会の関連活動に参加をしていますが、正直、空き家バンクは、今回初めて知ったくらいで、全く知りませんでした。

小川 ■知らない人も多いかもしれないけれど、空き家バンクのことは広報に載っていたと思う。けれど、隔々まで広報を見ていないと、文字だけの紹介だったので、何か伝える“すべ”は必要なのかもしれないですね。

森屋 ■僕も同じように、7年ほど前に広報を見て知りました。当時はまだ出だしの段階で、物件数も少なく、海まで少し距離があったりと、サーファーにとって魅力のない家ばかり(笑)。今住んでいる家は、知人から紹介してもらった空き家を購入しました。

玉越 ■私たち地域住民も、空き家バンクに対する知識がとても少ないのが現状です。そもそも住まいは先祖代々から受け継いだもの。空き家となるのは、「住み続けることが全くできない」という状況なので、なかなか空き家が出てこないですね。



空き家バンクの ニーズの高さはあるか？

那須 ■ニーズはとても高いと思います。もったこの制度を移住サーファーに知ってもらいたいと思っています。そのためには、広報・ホームページ以外でも、サーフショップや飲食店、コンビニなど、サーファーが訪れる場所に、空き家バンクについて発信するモノがあれば良いのかなと思っています。

小川 ■空き家バンクアプリなどがあれば良いかも。また、海外では敷金・礼金がいらぬ家もあり、海外のサーファーは気軽に住まいを見つけられることも。田原市に来るサーファーは、夏だけ来る人もいますので、とりあえず住んで「田原市が好きだな」と思ったら定住へ。まずは好きになることが大切！

寿崎 ■移住サーファーにとって空き家バンクはとても魅力的だと思います。しかし、先ほど玉越さんが言ったように、「住まいは先祖代々から受け継いだもの」「地域の住民が空き家バンクの制度を知らない」ということは、空き家バンクを活用したくても、空き家がなかなか出てこないことに繋がるかも。家を手放して、誰も住まなくなって、雨で住まいが朽ちて住めなくなって、取り壊す。その流れが一番もったいないですね。地域みんなで空き家バンクを広めないといけないのかもしれない…。

佐藤 ■今働いているところでも、空き家の現状を知ることが多く、とても難しい問題。地域、行政、企業全てが一丸となって空き家のサポートができれば良いですね。

中村 ■赤羽根地区は市街化区域なので、若い人が多くいる町内もあります。しかし、昔から住んでいた場所から別のところに新しい家を建て、昔の家を壊す人も多いため、その家を空き家バンクなどに出すことで、また良い方向に変わる可能性もあると思います。これからもっと空き家が増えます。そんな時に、空き家を活用した家族がそこに住み、小学生などのお子様もいたら、地域全体が明るくなる！フレッシュで元気いっぱいの町になると思います。

藤城 ■自治会としても、空き家になってしまうと、雨風にさらされて朽ち果てて、ゆくゆくは危険な建物になってしまいます。お施主さんと地域が話をできる体制にしないといけないです。「貸したらどう？」と、一言あっても良いと思うし、使えるうちに貸す、引き渡すことがその家にとっても嬉しいことだと思う。

玉越 ■特に若戸校区は、ほとんどがお年寄りが高齢化社会。私たちの世代で校区を守っていくことが困難な状況です。暮らしも考えないといけないけれど、移住者は働くことも考えないといけないと思います。例えば、農業で働く場合、新規就農したりする方もいるので、長く使える農業施設を地域で提供したりと、バックアップも必要だと思います。家も大切ですが、雇用面もしっかりと考えて、生活全体がバックアップできる制度を設けることが必要なのかもしれません。

地元のひと 移住サーファーとの 繋がり方や、 地域との関わり方は？

森屋 ■僕が住む地域では、2ヶ月に1回ほど「瀬古」と呼ばれる集まりがあります。15軒ほどが持ち回りをして、自宅に地域の人たちを招いて、お茶を飲みながら話すことにより関わり合いが深くなりました。

那須 ■僕は、地域の「役」を積極的に受けました。いろんな手伝いをする中で、地域の人たちと繋がっていききました。

小川 ■僕も同じように役をしたり、最近では、子どもが通う学校のPTAや子ども会の代表になりました。子どもが安心できる町を目指して、地域の人たちと協力しています。

中村 ■移住サーファーとの繋がり方という部分では、サーファーとして限定した見方ではなく、一人の住民として、若い人が地域の行事に参加してくれることはとても嬉しいことです。小学校の運動会では、若い世代が来ることで活性化にも繋がります。

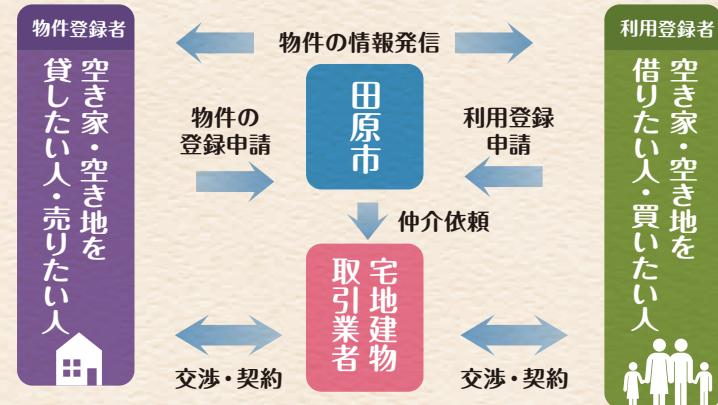
藤城 ■以前ロングビーチで、サイレンを鳴らして避難訓練をした時がありました。ほとんどのサーファーが避難訓練に参加し、とても嬉しかったです。今のサーファーはとてもマナーもよく、人との繋がりも大切にするので、住民として嬉しいですね。こういう会を通して、若い人(サーファーも含め)と地元住民が、しっかりと話し合うことで、移住や空き家バンク、働き方など、共有しあうことが大切だと、改めて感じました。



定住・移住をお考えの方へ

ぜひ田原市の制度を、活用ください

空き家・空き地バンク制度



●空き家を活用される方へ

空き家改修補助金

対象者	①所有者 … 空き家を自ら改修して10年以上居住できる者 ②所有者 … 空き家を自ら改修して10年以上賃貸の目的として使用することができる者 ③賃借人 … 所有者の了解を得て、空き家を自ら改修して10年以上居住することができる者
対象物件	① 空き家バンクに登録されている一戸建ての空き家 ② 売買契約又は最初の賃貸借契約の締結から6ヶ月以内に工事完了できる建物 ③ 昭和56年6月以降に建てられた建物又は昭和56年5月以前に建てられた建物で下記要件のいずれかを満たすもの a) 耐震診断が1.0以上の結果だった建物 b) 耐震改修工事が完了した建物 c) 今回の改修と耐震改修工事を同時に施工する建物
対象経費	台所、トイレ、風呂、下水接続等の設備工事及び内装工事、屋根及び外壁工事等
補助金の額	補助対象経費の1/2 …………… 限度額50万円 ※市内建設業者が改修した場合は限度額 60万円

お問い合わせ：田原市役所 建築課 ☎0531-23-3684

●若者・子育て世代の皆さんへ

田原市定住・移住促進奨励金制度

対象者	本人又は配偶者が45歳以下の方 対象住宅の所有権を2分の1以上有する方
対象住宅	田原市内において自ら取得(権利登記)する新築住宅又は建売住宅で、次の要件をすべて満たすもの ●建築基準法に基づく確認済・検査済の物件 ●居住用面積が70㎡以上 ●取得価格が500万円以上 ※住宅又は店舗等との併用住宅を対象 ※既存住宅の増改築は対象外
奨励金	●市外に1年以上居住し転入……………20万円 ●市内の杜宅・賃貸住宅等に5年以上居住し転居…20万円 ●上記以外……………10万円
奨励金に 加算する額	●義務教育終了前の子が同居……………10万円 ※子育て加算分のみ、たまぽカードポイント等により支給 ●赤羽根・福江市街化区域、夕陽が浜、光崎で取得…10万円 ●市内建設業者が建築……………20万円
条件	●取得後5年以上定住すること ●世帯全員に市税等の滞納がないことなど

お問い合わせ：田原市役所 建築課 ☎0531-23-3527

詳細は、田原市役所 建築課へお問い合わせをお願いします。